ISSN 1345-3580

Glocal Tenri

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.13 No.4 April 2012

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

4

CONTENTS

- 巻頭言
  人間とコンピュータ
  ／深谷忠一 1
- 天理教海外伝道の資料（26）
  満州伝道関連史料⑩
  ／深川治道 2
- 天理教伝道史の諸相（4）
  燎原の火の如く―明治 20 年代の教勢伸展―（その２）
  ／早田一郎 3
- 「襞のあわいに深く入り込んでいって…」をめぐって（2）
  襞のあわい――その火口②
  ／松田健三郎 4
- 「いのち」をつなぐ―生死の現象（4）
  死をどうしたら受けとめられるのか②
  ／堀内みどり 5
- 世界平和のための宗教対話（31）
  ヴァチカン―内部対立が表面化
  ／山口英雄 6
- ノーマライゼーションへの道程（2）
  障害の定義とその実態
  ／八木三郎 7
- 図書紹介（66）
  『信仰はどのように継承されるか―創価学会にみる次世代育成―』
  ／金子　珠理 8
- English Summary 9
- おやさと研究所ニュース 10

第 21 回宗教研究会／第 246 回研究報告会／台湾出張報告／平成 24 年度公開教学講座のお知らせ

巻頭言

人間とコンピュータ

おやさと研究所長　深谷忠一　*Chuichi Fukaya*

今年の年明けに、元将棋名人の米長邦雄永世棋聖とコンピュータ将棋ソフトのボンクラーズが対局して、将棋ソフトの方が勝ったと報じられました。チェスでは、すでに 1997 年に、当時の王者であったガルリ・カスパロフという人がコンピュータと対戦して負けています。しかし、相手の駒を取って使える将棋はチェスよりはるかに変化が多くて複雑で、コンピュータが人間に追いつくのはまだ先だろうと考えられていました。しかし、今回、すでにもうその時が来ているような結果が出たのです。

また、昨年には、アメリカのクイズ番組「Jeopardy!」で、IBM のスーパーコンピュータ「Watson」対人間の３日にわたるクイズ対決が行われ、スパコンがクイズ王のケン・ジェニングス氏の２万 4,000 ドルをはるかに凌ぐ７万 7,147 ドルを獲得しています。コンピュータは、チェスや将棋などの勝負事はもちろん、知識の蓄積のレベルでも人間に勝てるようになっているようなのです。

また、一方、「世界２位ではだめなのか？」との事業仕分けの質疑で有名になったスパコン「京」は、昨年６月の世界ランキングで日本勢として７年ぶりにトップに立ち、11 月にも１秒あたり１京 510 兆回の計算速度を達成して首位の座を守りました。人間の 10 倍のデータ容量と４倍の計算スピードを持つといわれるこのスパコンは、世界の 70 億の人間が総掛かりで毎秒１回の速度で 17 日間連続してやらねばできない計算を、僅か１秒で終わらせてしまうのです。

スパコンの演算処理速度は、１年半で約２倍というペースで高速化していて、2020 年頃には「京」の 100 倍以上の演算処理能力を持つ、エクサフロップス級スパコンの時代が到来すると言われます。あるいは、それ以上の手のひらサイズの量子スパコンの試作機が５年以内に完成して、現在のスパコンで数年かかる計算を１秒でできるようになるという話もあります。

そうなれば、電話ボックス 800 台分の大きさで 990 万ワットもの電力を消費する現在のスパコンが小型・軽量化して、人間の脳と同じ大きさ（1,200 ～ 1,500㎤）とエネルギー消費量（20 ワット）で、人間の脳の数十倍の情報を集積して、より素早く計算できる能力を持つようになることも、不可能ではないと思われます。

さて、しかるに、それでは、いずれこの世が、SF 小説で描かれるようなコンピュータに支配される世界になるかというと、決してそういうことはありません。何故なら、いくら優秀な機械でも、それを作って動かすのは人間だからです。たとえば、ボンクラーズにしても、人間が対局した古今東西の５万局もの棋譜が入力されていなければ、プロ棋士と将棋を指すことはできません。スパコンにしても、人間が各種のソフトを作り、膨大なデータを入力して、その上で電源スイッチを入れなければただの箱なのです。

コンピュータに限らず、機械が人の身体能力を超えることは、すでにいろいろな状況で生じています。たとえば、フォークリフトやクレーンは、人間よりはるかに重いものを持ち上げます。また、自動車や電車の方が人間よりはるかに速く遠くへ行けますし、航空機は人間の足で到達できる最高峰のエベレストの遙か上を飛びます。オリンピックの金メダリストがいくら速く走っても、高く飛んでも、力をふりしぼっても、機械には勝てないのです。しかし、たとえば、「100 mを自動車は３秒ほどで駆け抜けるのに、人間は最速のウサイン・ボルトでも 9.58 秒もかかる。だから人間は機械に劣る」とは誰も言いません。それは、機械はあくまでも人間の補助具であって、この世での価値は人間の元の能力がその基準になることを皆が認めているからです。

親神は、人間に陽気ぐらしをさせようとしてこの世を創られました。人間以外の機械や生物が陽気ぐらしするのを望まれてこの世を創られたのではありません。人間の陽気ぐらしこそがこの世の存在目的なのです。ですから、逆に申せば、そこに人間以上のものが出現することがあれば、この世そのものの存在価値が消滅してしまうということです。つまり、時代がいくら進んでも、コンピュータや他の何物かがこの世界の主になることはあってはならないし、なることもないのです。

コンピュータも親神によって人間になされた“知恵の仕込み”の産物であり、人間の陽気ぐらしに寄与するよう使われるものだという認識のもとに、コンピュータのさらなる進化を楽しみたいと思う次第です。